第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

サキシマアオヘビ

Cyclophiops herminae (Boettger, 1895)

太田英利（兵庫県立大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　爬虫類・両生類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：太田英利，2026．サキシマアオヘビ．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 238-241．

Citation: Ota, H., 2026. *Cyclophiops herminae* (Boettger, 1895). *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 238-241.

有鱗目 Squamata　ナミヘビ科 Colubridae　　日本固有

サキシマアオヘビ

***Cyclophiops herminae* (Boettger, 1895)**

カテゴリー判定結果　準絶滅危惧（NT）　②				
基準 A:　VU 未満	基準 B:　VU 未満	基準 C:　―	基準 D:　VU 未満	基準 E:　―
生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。 具体的には、分布域の一部において、次の傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。 ②生息条件が悪化している。 【判断理由】 特に西表島では、晩春から晩夏にかけて路上轢死体が目立つ。				
評価分科会：　爬虫類・両生類分科会				

概要

八重山諸島の固有種で、おもに森林やその周辺にみられ、ミミズ類を捕食する。開発等による森林の縮小に加えて、外来種が定着しており、生息状況の悪化が懸念される。

基礎情報

【形態】

頭胴長 400～700 mm。頭部は小さく、幅は頸部の幅とほとんど変わらない。体鱗は胴中央で普通 17 列であるが、まれに 19 列の個体も見られる。腹板数は 161～164 枚、尾下板数は 52～64 対。背面の地色は灰褐色で、やや青味ないし緑味を帯びることもある。胴部には、ところどころに小さな黒斑が見られることが多い。腹面は淡いクリーム色で、とくに模様はない。

【生活史】

8 月末に、飼育下で 8 卵を産んだとの報告、並びに 8 月中旬に得られた礫死体に 9 個の輸卵管卵が確認されたとの報告があることから、7 月末までに産卵を終える種の多い琉球列島の陸生ヘビ類の中では、例外的に産卵期が遅いと思われる。

【生息環境】

山地から平地まで、また湿潤な常緑広葉樹林の自然林から、比較的乾燥した灌木林、人工林内までさまざまな場所で見られるが、いずれでも生息密度はあまり高くない。ミミズ類を捕食する。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】森林 【陸域_平地部】森林
国土地域区分：	(1) 奥山自然地域, (2) 里地里山・田園地域, (7) 島嶼地域

【分布域】

八重山諸島の石垣島、西表島、波照間島、小浜島、黒島、竹富島などに分布。宮古諸島にも分布するとの記述もあるが、標本や写真などの直接的証拠に基づく再確認が必要。

現在の生息状況

【分布域の現況】

分布する島嶼では、山地から平地の常緑広葉樹林のほか、比較的乾燥した灌木林、人工林内までさまざまな場所で見られる。

【生息地の現況】

詳細は不明だが、主要な生息環境である湿潤な森林は減少しているほか、外来種が生息地に定着していることから、生息環境は悪化傾向にあると考えられる。

【個体数の現況】

生息に適した場所の縮小から個体数が減少傾向にあるのは間違いないが、具体的な数値等は不明。

存続を脅かす要因

イタチ（波照間島）やクジャク（小浜島、黒島）、オオヒキガエル（石垣島）などの外来

種による捕食がおもな危急要因と考えられる。		
要因の区分：	（過去）	捕食（外来種による）
	（現在）	捕食（外来種による）

特記事項

特になし。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	サキシマアオヘビ	*Cyclophiops herminae*	NT
第４次 2019：	サキシマアオヘビ	*Cyclophiops herminae*	NT
第４次 2018：	サキシマアオヘビ	*Cyclophiops herminae*	NT
第４次 2017：	サキシマアオヘビ	*Cyclophiops herminae*	NT
第４次 2015：	サキシマアオヘビ	*Cyclophiops herminae*	NT
第４次：	サキシマアオヘビ	*Cyclophiops herminae*	NT
第３次：	サキシマアオヘビ	*Cyclophiops herminae*	NT
第２次：	サキシマアオヘビ	*Cyclophiops herminae*	NT
第１次：	サキシマアオヘビ	*Opheodrys herminae*	R

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【沖縄県】準絶滅危惧(NT)

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

指定なし

参考文献

- 太田英利，1981．波照間島の爬虫両生類相．爬虫両棲類学会誌，9: 54―60.
- 高良鉄夫，1962．琉球列島における陸棲蛇類の研究．琉球大学農家政工学部学術報告，9: 1-202, 22 pls.
- 田中聡，2004．小浜島における両生爬虫類の現状について．小浜島総合調査報告書，pp. 21-33. 沖縄県立博物館，那覇.

- 当山昌直，2005．サキシマアオヘビ．沖縄県文化環境部自然保護課（編），改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（動物編）-レッドデータおきなわ-，pp. 125-126．沖縄県文化環境部自然保護課，那覇．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Cyclophiops herminae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Cyclophiops herminae* is listed as NT under criteria ②.

The species that is considered to be under increasing pressure for survival, as indicated by habitat status trends, specifically with the following notable tendencies in parts of its distribution that are likely to continue.

②Habitat conditions are deteriorating.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】Forest 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】Forest
Threat types:	Predation (by alien species)
Law designation status for conservation	—



執筆者:	太田英利（兵庫県立大学）
Author:	Hidetoshi Ota

公表年月：2026 年 3 月